

て い ち あ み

ぎ よ ぎ よ う

[がいこくじん ぎのうじっしゅうせい よう きょうざい]

だいにほんすいさんかい

はじめに

この きょうざいは あなたがた がいこくの かたがたが
にほんの 「ていちあみ ぎよぎょう」の ぎのうじっしゅうを
うけるときに やくだつように さくせい しました。

なれない にほんごの きょうざいですが みなさんが
わかりやすいように 「ていちあみ ぎよぎょう」について や
さしく せつめいして あります。

もし わからない ところが あれば ぎのうじっしゅう
しどういんや にほんじんの のりくみんに しつもんして
きそてきな ちしきを いちにちも はやく みに つけて
ください

もくじ

1. ていちあみ ぎよぎょう
2. ていちあみ ぎよぎょうの ぎよぐ
3. ていちあみで とれる さかな
4. そうぎょう
5. とった さかなの しより
6. ていちあみの かんり
7. きけんの ぼうし

1. ていちあみ ぎよぎょう

さかなは たまごを うむため えさを さがすため すみやすいところを さがすため むれを つくって およいでいます。

さかなの むれが とおっていく ところは きせつや かいすいの おんど しおのながれで かわることが あります。

しかし きしちかくでは だいたい おなじような ところを とおることが おおいです。

ていちあみは さかなの よくとおるところを みつけて あみを 入れておき およいでくる さかなをとる ぎよぐです。

あみいれ

①ていちあみを どこにいれるか

②かきあみ(みちあみ)を どのくらいの ながさで どのほうこうに いれるか

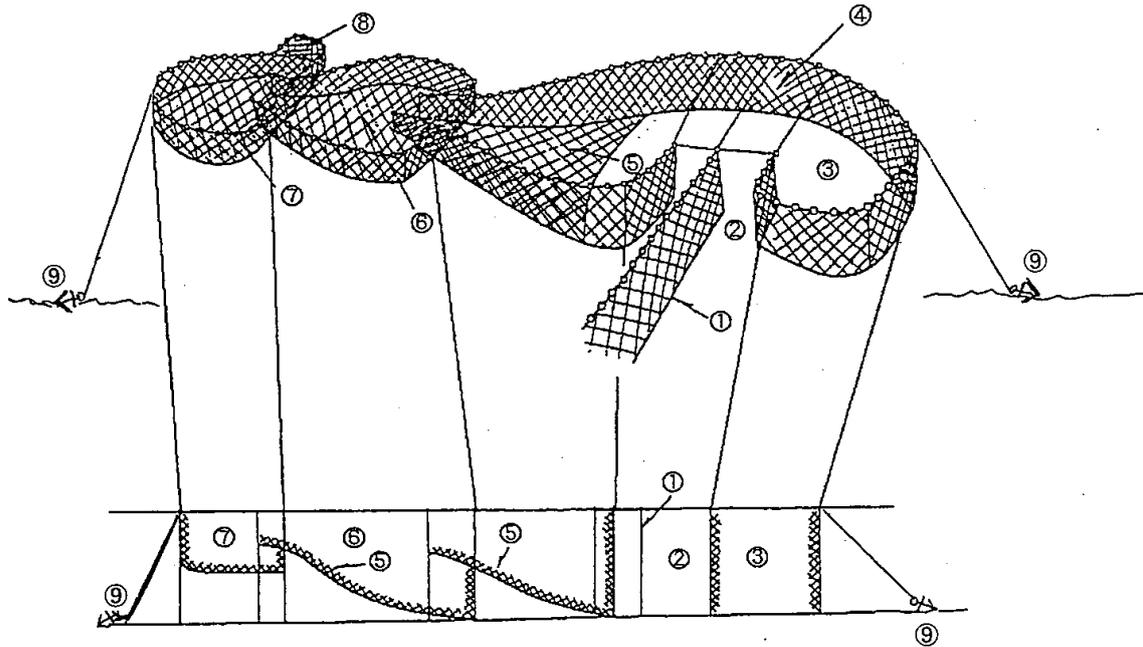
③うんどうば はこあみを どんな かたちにするか

これらは とてもむずかしい ことなので ながい けいけんのある リーダー(せんどう、ぎよろうちょう)が きめます。

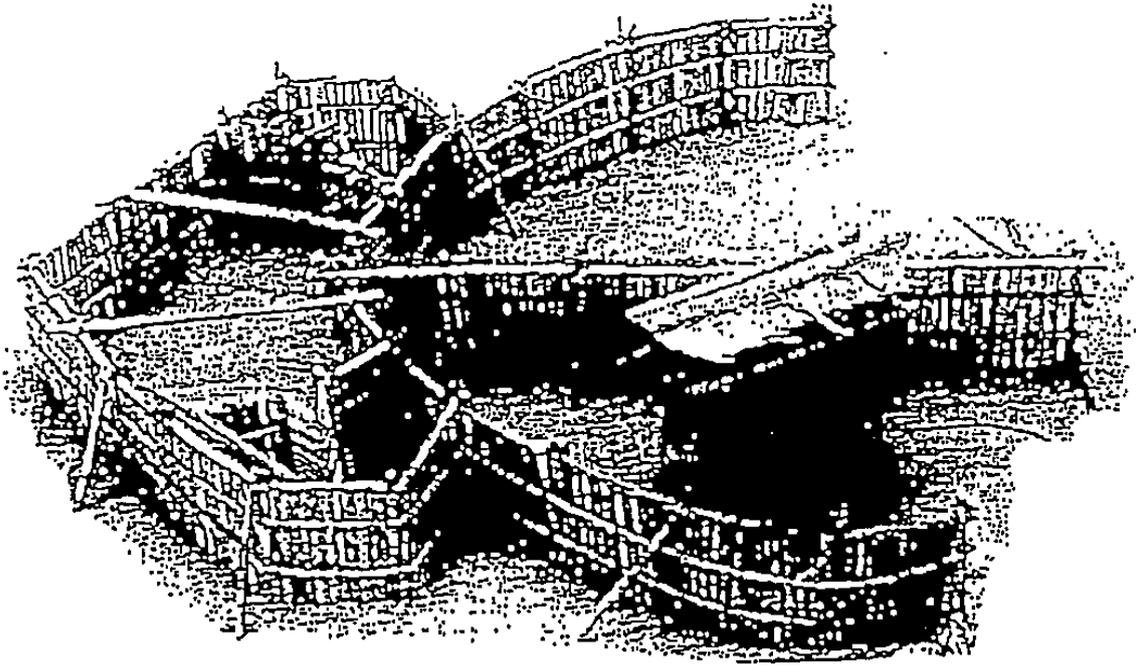
ていちあみは いつも とったばかりの しんせんな さかなを いちばに おくることができる ぎよぎょうです。

2. ていちあみ ぎよぎょうの ぎよぐ

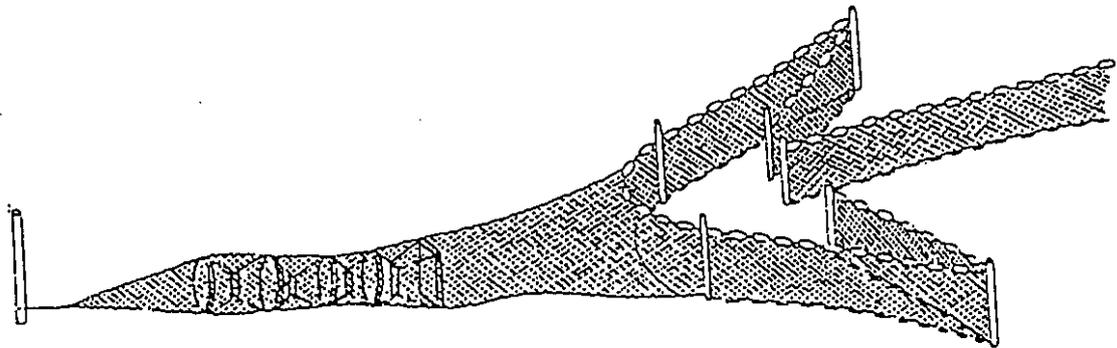
ていちあみ ぎよぎょうの ぎよぐは かきあみ (みちあみ) うんどうば
のぼりあみ はこあみで できています。



- ①かきあみ
- ②はぐち
- ③うんどうば
- ④つきあたり
- ⑤のぼりあみ
- ⑥だいいちはこあみ
- ⑦だいいちはこあみ
- ⑧きんこあみ (もったあみ)
- ⑨いかり (どひょう)



ちいさい ていちあみ



かきあみ (みちあみ)

かきあみは ふとい いとで おおきいめあいに あんだあみで つくります。

およいできた さかなは かきあみに ぶつかると あまり ちかよらずに あみにそって おきのほうに およいでゆきます。

かきあみの あみいとや あば(うき)や あばづなは みずの ながれが あたると ふるえて ちいさな おとを だします。

よる かきあみが みえなくても さかなは このおとを きくと あみに ちかよらず おきのほうへ むかって およいで いきます。

うんどうば

かきあみにそって おきのほうへ およいでいった さかなは うんどうば に はいり そのなかを およぎます。

のぼりあみ と はこあみ

さかなは うんどうばの なかを まわって およいでいるうちに のぼり あみから はこあみのほうへ はいって いきます。

うんどうばや はこあみに はいった さかなが いりぐちから にげだせないように あみのかたちは いろいろと かんがえられています。

ていちあみの ちいさなものは かわ みずうみや あさいうみに 入れる ことが できます。

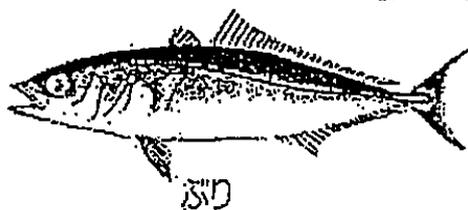
ちいさい ていちあみは あみや うきや あみを たてる さおを すこしつかえば できます。また あみを あげるときも すくない ひとで できます。

3. ていちあみで とれる さかな

ていちあみで とれる さかなは ばしょによって しゅるいや とれる きせつが ちがいます。

れい：みやぎけん あき：あおりいか かんばち
ふゆ：するめいか ぶり めじな たちうお
はる：かます あじ いわし

ほっかいどう あき：しろぎけ さくらます ほっけ
するめいか
ふゆ：まぐろ ぶり こまい
はる：ます にしん
なつ：かたくちいわし



ぶり



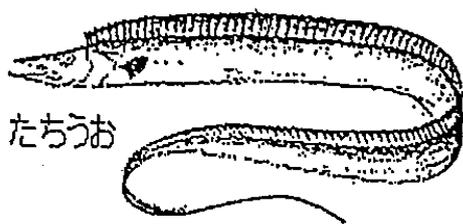
あじ



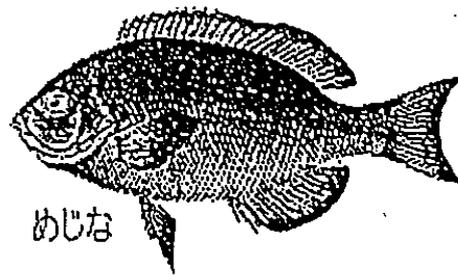
いわし



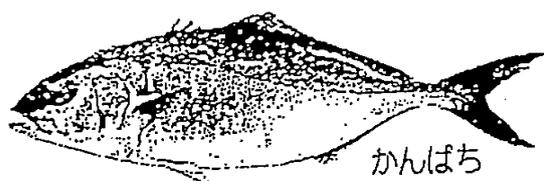
かます



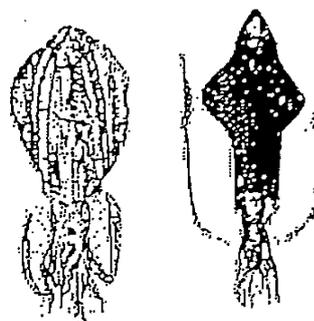
たちうお



めじな



かんばち

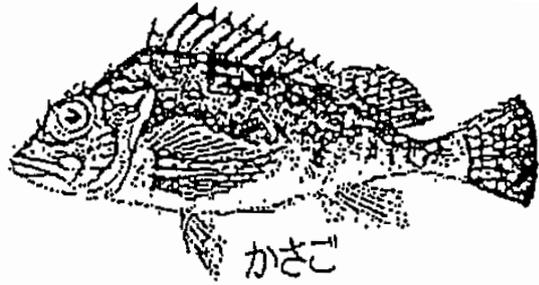


あおりいか やりいか

きけんな さかな
〈はりや とげをもつ さかな、どくのある さかな〉



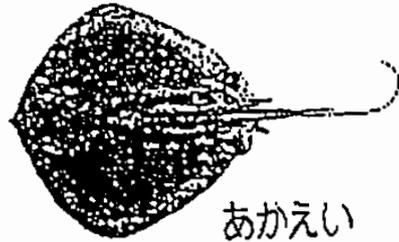
おにおこぜ



かさご



とらぶぐ



あかえい

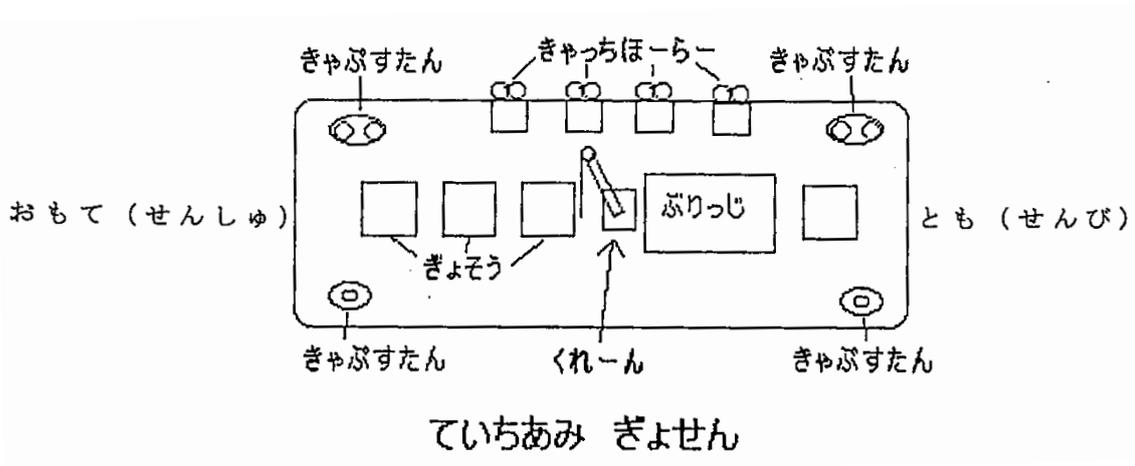


おにかます

4. そうぎょう

あみおこしは ふつう あさはやく あげるが ひるまや ゆうがたに あげることも あります。

あみおこしに つかう ふねは はばの ひろい ふねで きやぶすたん きやっちほーらー くれーんが ついています。



きやぶすたん：つなを まきあげるとき つかいます。

きやっちほーらー：あみを ひきあげるとき つかいます。

くれーん：さかなを ぎよそうに (かめ) に いれるとき つかいます

あみおこしを するときは ふねを はこあみの よこに つけます。

はこあみに ついている ろーぷや あみを きやぶすたんや きやっちほーらーを つかって すこしづつ たぐりあげます。

たぐりあげている きかいの あいだに ひとが たって あみを てで ひきあげます。

はこあみを すこしづつ せまくして さかなを すみの ほうに あつめます。

あつめられた さかなを たもですくい くれーんで まきあげ ぎよそうに いれます。

あみに さめや かじきのような おおきな さかなが はいったときは てかぎや かぎざおで ちゅういして でつきに ひきあげます。

はりや とげを もつ さかな (えい、おこぜなど) も はいるので きをつけなければ いけません。

どくが あって いちばに あげない さかなも はいるので せんべつの ときは きをつけなければ いけません。(ふぐ、おにかますなど)。

5. とった さかなの しより

ていちあみ ぎよぎょうで とった さかなは いたまま すいそうに いれます。

または すぐに たくさんの こおりと かいすいを まぜた ぎよそうに 入れて つめたくして はこびます。

げんきに いきている さかなや つめたくひやした さかなは いちばで たかく うれます。

とくに あつい なつには こおりを たくさん つかって さかなを よくひやすように ちゅういします。

6. ていちあみの かんり

あみは あまり よごれないうちに かきあみなど あみごとに ひきあげて ほーすで みずを かけて あらいます。

そのとき やぶれている ところがあれば あばりを つかって しゅうり します。

あみの ようすを みるために うみにもぐって たしかめることも あります。

たいふうや おおきな あらしが くることが わかったとき あみを あげることが できます。

おおきな ていちあみでは ぎよぐんたんちきを つかって はこあみに

どのくらいの さかなが はいっているか しらべることも あります。

あみに よごれが つかないように くすりを まげたぺんきを
しみこませる こともあります。

このくすりは うみを よごさないものを つかいます。

あみを はる ろーぷは ときどき しらべて わるくなっているところは
あたらしいものに かえます。

7. きけんの ぼうし

あみおこしの ときには かいてんしている きゃぷすたんや
きゃっちほーらーに まきこまれないように ちゅういします。

くれーんで ぎょぐなどを つりあげるときには そのしたに
はいらないように ちゅういします。

あみや ろーぷを ひくとき ゆびを からまないように ちゅういします。

なみや かぜの つよいときは とくに ふねの よこゆれ (ろーりんぐ)
や たてゆれ (ぴっちんぐ) が おおきいので ちゅういします。

ふねの ぶるわーく (げん) が ひくいので そこから おちないように
ふねのゆれに ちゅういします。

いかりや どひょうを うみに いれるときには ろーぷに
まきこまれないように ちゅういします。